
音風の呟き ？

音風 奏（雅董杏みつ）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

音風の呟き？

【Nコード】

N6293V

【作者名】

音風 奏（雅董杏みつ）

【あらすじ】

音風が何かを呟きたくなったときの呟きです。
ンマー、気軽によんでくださいな

アレは、俺がまだ小学校に上がる前だったな。保育園の級友たちの間で、一時期とある一冊の本が流行っていたことがあった。

タイトルを「さるの一日」という、比較的子供向けの絵本であるそれは、サルの絵が可愛くて特徴的だったのが流行の原因であり、当時あまり「本」というものに興味を示さなかった俺ではあったが、ある時、一番仲良しだった友達に「一度でいいから読んでみて」といわれ、借りたその絵本を自宅の居間で読んだ。そのとき、訝しげな目で親が見ていたのを覚えている。

内容はほとんど子供だましで、「朝は歯を磨く」だの「風呂に入ってから寝る」だの、実際にはほぼ嘘の塊といっても良いようなことばかりだった。

その中でも、俺の目に止まったものがある。それは「気繕い」というサルの習性についてだった。

絵本では「サルの体についたゴミをとること」とされていて、その隣には縦一列に並んだ三匹のサルが同じ方向を向いている挿絵が描かれていた。

サルたちは整列するような配列で、一番前のサルの背中を真ん中のサルが摘んでいる。真ん中のサルの背中を、その後ろのサルが摘んでいる。そんな挿絵。子どもの頃の俺には、ただ背中を摘んでいるようにしか見えなかったが、今思えばアレは立派な「毛繕い」の絵だったかもしれない。……って、俺が語りたいのはそこじゃなくて。

あの絵をみて当時の俺は、『この真ん中のサル、うらやましいな』と思った。文章の中に「サルたちはこのあと、みんな後ろを向いて毛繕いをしてくれたサルに毛繕いをします」とかいてあり（独断で一部を分かりやすく修正）、それはつまり、真ん中のサルは常に毛繕いをよされている状態だということだと考えたが故だと覚えてい

る。

そして小学校に上がってまだ間も無かったころ、俺は気が付いた。きっかけは担任の「いつも前から渡すと、前の人が大変なので、たまには後ろの人から渡しませうね」と言い、以後時折、列の後ろからプリントを配るようになったことだ。

列の真ん中にいた俺は、前から渡される時も後ろから渡される時も必然的に「受け取る」「渡す」の二つの行動を強いられる。他人から渡される時は楽で嬉しいが、いざ自分が渡すとなると、若干の倦怠感を覚えてしまう。

そうして気付いたのだ。俺が真にうらやましかったのはプリントを渡されることであり、それはつまり、楽であるということなのだ。

しかし、楽であるということは、反対に言えば「いかに仕事量が少ないか」であり、そうしてくると真に楽なのは、常に「受け取る」「渡す」のどちらかしが行う必要のない、両端の奴なのだ。

つまり、サルたちの毛繕いのなかで最も楽なのは両端のサルであり、真ん中のサルは他二匹分の仕事量なのだ。

こんなこと、小学校に上がる前から分かっておくべきだったと、当時の俺は過去の俺を蔑んだものだ。

まあ、今となっては自分の成長を知るいい思い出だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6293v/>

音風の呟き ？

2011年11月17日10時06分発行